

オバマ大統領の広島訪問と石川馨先生



(株)地圏環境テクノロジー
元・大成建設株式会社
末岡 徹

2016年5月27日、オバマ大統領は、現職の米国大統領としてはじめて被爆地広島を訪問した。大統領は広島で、先の大戦や原爆投下によって犠牲となられた全ての人々に対し哀悼の誠をささげるとともに、人類は学ぶことにより未来を選択できることを訴えた。また人類は、科学技術のおかげで海を越えて交流し、雲の上を飛び、病気を治し、宇宙を理解できるようになってきたが、同時にこうした発見が、原爆などのより効率的な殺人マシンに変わってしまう恐れがあることについても言及した。そして「核なき世界」の実現は遠い道のりであるとしながらも、最後に広島での犠牲者はごく普通の人々であり、科学の奇跡を、命を奪うのではなく暮らしをより良いものにするために使って欲しいこと、また国家の選択や指導者の選択が、この単純な英知を反映した時、広島での教訓がはじめて生かされると強調した。

ここに政治の世界とはまったく別のアプローチにより、未来志向でまさに多くの国々の人々の生活を向上させ、人々により多くの幸せをもたらすことに貢献した人がいらっしゃる。昨年生誕百年を迎え幾つかの記念事業が催された石川馨先生である。先生は、大学では応用化学を専攻し、石炭液化の会社や海軍技術士官として戦争も体験している。1950年、米国からデミング博士が来日し、産業の基盤である品質管理(QC)を紹介した。先生は、米国および博士から品質管理の多くを学んだが、米国の品質管理手法には、品質管理は専門家に任せておけば良いという考えがあることに気づき、日本で品質管理を根付かせていくためには、自主的に全員が参加する品

質管理活動が必要だと主張し実践した。まさに日本の文化風土に合ったQCサークル活動、さらには全社の品質管理(TQC)である。そして、これらの努力が実り、1960年代から1980年代には、メイドインジャパン製品が世界を席巻することになる。

一方で、先生は早い時期から、品質管理は日本ばかりでなく世界のために活かすことを念頭に、30ヶ国を越える国々を訪れ、言わば品質全権大使としてQCの普及や実践に努めた。また、先生は自由貿易に大きな価値を認め、各国が切磋琢磨して製品の品質を高め、国際分業を進めていくことが、結果として国同士が簡単に戦争を起こせない関係になり、結局世界平和につながるという信念をお持ちだった。現在なら品質を重視したサプライチェーンの確立が結局、世界平和の礎になることを意味している。

18世紀の産業革命以来、経済・工業生産活動の中心は、主に欧米諸国であったが、過去50年、じわりとであるが、その重心がTQC活動(今日のTQM活動)を活発に実践し発展させてきたアジア・太平洋の国々に移りつつある。まさに人類の未来を見つめ、品質管理によって質の高い製品を作り多くの人々に平和と幸せをもたらすという石川馨先生の人間愛の哲学とその先見の明に思いを致し、改めて敬意を表する。(本稿を執筆するにあたり、2016年5月27日広島におけるオバマ大統領の声明および日本科学技術連盟・石川馨先生生誕100年記念事業サイト「人間石川馨と品質管理」を参考にしたことを記す)